

私の考える小さな親切

福岡県 福岡教育大学附属小倉中学校 3年 折田 理佳

4月16日未明、震度7の本震が襲った熊本に、その日の午後、姉を迎えに行くため、父と母と3人で向かいました。まだ余震も続いており、危険な様子がテレビから流れているし、高速道路も途中までしか通っておらず混雑しているし、私は本当は行きたくありませんでした。

熊本に近づくにつれ驚いたのは、高速道路やサービスエリアには県外ナンバーの消防車、救急車、NTTの車、電力会社、ガス会社、支援物資を運ぶ車、警察、自衛隊など、被災地を支援するため、多くの車や人が見られたことです。

全国各地から数時間でこのように人が集まり、被災地の人たちを助けようとしていることに感動し、その人たちに尊敬の念を抱きました。サービスエリアのコンビニでは、紙オムツ、水、パン、ティッシュ、電池など、被災地で必要とされている物が数多く揃えられていました。

予想通り、高速道路を出るにも混雑、熊本市内に入るにも混雑、道路はすべて混雑していました。が、クラクションを鳴らす人もおらず、争いごともなく、お互い道をゆずり合い、警察の指示に従ってしゅくしゅくと進んでいました。また、ガソリンスタンドにも長い列ができていましたが、みんなじっと待っていました。そこには一人も自己中心的な人がいませんでした。周りが見えていない人や神経を逆なでする人など誰一人おらず、本当は心身ともに疲れてクタクタだと思うのですが、じっと耐えていました。被災地のその姿に接し、自分第一ではなく他人を思いやる優しい心が根底にあるから、できる行動なんだろうなあと思いました。

今回、被災地に短い時間ですが訪れる機会に恵まれました。そこには、非日常の世界があり、空気も陽の光も時間の流れも、何か違う感じがし、心が重くなりました。北九州に戻ったとき、ホッと安心したのを今でも覚えています。

私が体験した「小さな親切」、それは、親切の大きい小さいではなく、他人を思いやる小さな心遣いでした。普段の生活の中で人に迷惑をかけないようにしようと心がけていたら、人にどうしてあげればいいのかわかってくると思います。エレベータや乗り物に乗ったときは、お年寄りや、小さい子どもを連れた人、体の不自由な人を優先して、自分は後から乗ったり、席をゆずるなど公共マナーを守ることも細やかな心遣いだし、相手の時間を尊重し、約束の時間を守ることなど、やろうと思えばいつでもどこでも誰にでもできることだと思えます。